

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175100740		
法人名	社会福祉法人 晴智会		
事業所名	グループホーム晴和苑		
所在地	埼玉県新座市東3丁目7番26号		
自己評価作成日	平成27年11月17日	評価結果市町村受理日	平成28年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=1175100740-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	平成27年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○職員は定着しており有資格者が多い。チームケアとして情報の共有が図れ、ケアプランに沿った内容で自立支援に向けたサービスが提供されている。
 ○利用者本人の意思を尊重し得意分野の発見に努めると共に、利用者の持つ力を存分に発揮出来る様環境を整え、やりがい生きがいになるように働きかけている。
 ○利用者の“五感”を大切に日々接している。食や行事から季節感を味わって頂き、外気浴の時には風や花から四季を実感できる様心がけている。
 ○体操と合唱を日課とし継続することで、心身共に健康的な生活を送れる様支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

最寄り駅より徒歩約10分の所にある定員9名、1ユニットのグループホームである。A4サイズで大きく見やすいパンフレットには案内図の他、料金の説明、理念やホームの1日の流れが記載され、見易くて分かり易いものである。利用者9名は皆女性でホーム内は手編みのソファカーパーやパッチワークの作品が飾られ、落ち着いた雰囲気となっている。職員シフトは早番、日直、日勤、遅番、夜勤となっており、日勤者をその日のリーダーとしている。平成16年の開設以来、職員定着力が良く、退職者も結婚、出産が主である。職員は有資格者が多く、入居者の事を思う気持ちに溢れていて、スタッフ同士がお互いを理解しており、職場環境の良さがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく」「楽しく」「地域とともに歩む」という基本理念を掲げ、周知できるよう内容を表示した書類を玄関や職員事務所に掲示している。	基本理念「明るく、楽しく」のとおり、職員、入居者の笑顔が多く見受けられ、家族アンケートでも職員が生き生きしているという声が寄せられている。犬の散歩中の近隣の人や商店の人との交流があり、毎日の生活の中で理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者は外気浴の際、玄関先から近所の人と気軽にふれあう事を楽しみにしている。挨拶を交わしたり犬の散歩の途中で立ち寄ってくれる等、交流の場としての環境作りに役立っている。夏には町内会のお祭りに参加しており、利用者が地域の住民として安心して生活出来る様支援している。	自治会に加入しており、回覧板から地域の情報を得ている。犬の散歩中に立ち寄って頂く住民とは挨拶を交わす以上の交流があり、夏祭りでは実行委員会として、企画から関わって頂いている。また、町内会の盆踊りには入居者も参加し、地域の一員として関わりが出来るよう、支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の中学生の職場体験を受け入れ、認知症高齢者とふれ合うことで理解を深めてもらえるよう努めている。実習生の受け入れも行っており、グループホームの特性を学んでもらえるよう指導に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や出来事等を報告している。会議では、各委員の方から要望や助言をいただき、日々の業務に役立っている。また会議の内容は、議事録を作成し、職員全員が周知でき、またご家族にもいつでも開示できるようにしている。	運営推進会議は2か月に1回、定期的に行われている。参加メンバーは職員、利用者家族、民生委員、市役所職員等でホームのお知らせや報告を行い、行政からのお知らせ等もあり、議事録を残し、いつでも確認出来るようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市職員や地域包括支援センター職員の参加があり、利用者の様子を報告したり施設の運営について助言を頂いたりしている。又、市主催の勉強会に定期的に参加し情報交換を行うと共に連携の強化を図っている。	運営推進会議での要望や助言は日々の業務に活かす様にしている。3か月に1回開催される市主催の地域密着サービス勉強会に参加しており、内容を記録し他の職員にも会議時に周知している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の出入りは自由にしており、利用者の気持ちが“外”に向いた時は速やかに対応・見守り出来る様努めている。居室の窓は施設構造上、危険回避の為基本的には施錠している。	各部屋には内鍵がついており、入居者は自由に施錠する事ができる。玄関は日中は鍵は掛けていないが、居室窓は転落等の事故防止のため、施錠している。施錠の他、身体拘束に関する研修への参加や会議時に勉強、確認をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日のケアを振り返り、職員同士がお互いにケアに対して意見を出し合ったり、相談できる関係を作っており、虐待がおこらない環境作りに努めている。運営主体である市役所からの通達文章の虐待に関する報告書には、全職員が目を通し、各々虐待防止に対する意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度に関する事は研修や勉強会に参加した職員が学んだ知識を持ち帰り、研修報告書等で内容を確認し職員で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、契約書、重要事項説明書の読み合わせを行い利用者・家族の同意を得ている。又、当事業所に対応できないサービス内容を説明し家族の協力が必要である事を理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の声や意見は、普段の会話や介護を行っていく上で聞き取ることに努めている。家族に対しては、面会時や電話、家族懇談会で意見や要望を聞くようにしている。	入居者の要望は普段の会話から聞き取り、家族には訪問時や電話の機会に聞くようにしている。その他、年に1回の家族懇談会でも意見を聞く機会を設けており、家族アンケートでも要望に対する対応に満足していることがうかがえる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を開催し、福祉部長参加のもと職員全体で意見交換や話し合いを行っている。会議にて提案された内容が実践されているか、課題があるかは、次月の会議にて確認している。	毎月開催のケアプラン会議の中で職員の意見や要望を聞いている。提案された意見が実践された場合は実践内容が良かったかどうかを振り返り、職員間で検討、確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福祉部長が中心になって職員の人員配置や勤務状況、労働時間の把握をし、職場環境の整備に努めている。現場職員の心身の変化には早期に気づけるように話し合いができる環境を保つように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の会議ではスーパーバイザーである福祉部長が出席し、認知症介護の在り方と基本姿勢や疑問等出し合い助言を頂いている。又、職員個々の適性に合わせた研修参加を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的開催される市内の地域密着型サービス事業所の勉強会に参加し、事例検討や行事内容等の情報交換を行いケアに活かしている。又、他グループホームへの見学会も予定されサービスの質の向上を目指している。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居宅ケアマネージャーからの情報提供を参考にし、本人の状況把握に努めている。又、入居前の来苑時に本人と面会し、グループ内の雰囲気味わって頂くと共に、不安な事や希望等聴きとる時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時に、本人に対する家族の悩みや不安な気持ちを共有しながら、グループホームにおける家族協力の必要性を説明し、利用者同様、相互の信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの利用相談時において、その方の状況を見極め、グループホームの利用待機中の介護サービスの利用を提示して、その時必要なサービスにつなげる対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の不安や喜びなどを知る事に努め、暮らしの中で分かち合い共に支え合える関係づくりに留意している。又、職員は常に利用者から教えて頂く姿勢を持ち、普段から利用者が活躍できる場面作りに配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは必要に応じて連絡をとり、受診の付添いや行事参加で協力して頂いている。変化や気づいた事は随時報告し、又、面会時は生活の様子をお伝えしている。月1回の通信紙も個々の利用者へ添った内容を送り安心して頂く様努めている。離れて暮らしていても“常に家族は一緒である”という安心感を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親族以外にも、友人の面会もあり交流をしている。また、家族の協力により、お墓参りや法事、お正月の帰宅等をされる方もいる。	入居時のアセスメント等により家族や知人、友人の情報を確認し、入居後の面会の支援を行っており、家族・親族以外に友人の面会もある。家族の協力を得てお墓参りや自宅への帰宅等も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報連携し、役割活動を通じて利用者が互いを支え合い認め合う関係が円滑になるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	基本的には契約終了と同時に支援関係は終了するが、家族の相談には応じられるように心がけている。以前入居されていた方の家族から現状報告があったり、家族が立ち寄られることもある。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、利用者との会話を大切にし、本人の言葉の中から意向や希望を把握するよう努めている。また普段の生活においても、利用者の様子等を観察し、本人の思いを汲みとっていけるよう努めている。	入居者との日々の関わりから本人の思いを汲み取るための傾聴を行っており、信頼関係を築くよう努めている。また個々に合ったコミュニケーションの取り方を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報は本人や家族、居宅ケアマネージャーから得て、これまでの暮らし方の把握に努めている。又、入居後も本人や家族から折にふれ聴くようにしており、安心した生活の基盤となるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握し、それぞれのベースを大切にしている。毎日のバイタル測定や食事量・水分量、排泄の状況等、利用者の生活の様子を記録し、職員間で情報を共有している。普段の生活の中で行う調理や掃除、レクリエーション等の中で、その人の出来ることを、新たに見つけ出すことも大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族にモニタリングを行い意向や意見を聴き、その結果をもとに会議で話し合いをした上で介護計画を作成している。本人の言葉や行動等の中から変化を察知した時はモニタリングノートに記入し、介護計画の作成・変更を活用している。	本人、家族の意向等を反映し作成している。モニタリングノートがあり、個人別に変化等があったら記入している。基本は介護認定に合わせ介護計画を見直す。変化があった際にはその都度、本人、家族に確認を行い会議を開き検討し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子や本人の発言、心身の状況や変化を個人記録に記入し、職員は目を通すようにしている。重要な事項はスタッフノートを活用し、職員全員が情報のキャッチを早く行い、また共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の繋がりを活かし、特養やデイサービスの行事に参加し気分転換を図っている。又、本人や家族の希望に添って外出や外食の機会もあり、孫の結婚式に参加される方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月1回地域の美容室の方がボランティアとしてヘアカットをしてくださる。又、近隣の大学から定期的に学生がボランティアとして訪れ、利用者とは和やかな時間を持っている。行事等には新座市に登録している“ボランティアバンク”を活用し、利用者と一緒に楽しい時間を共有している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医となっており、家族付添いによる受診対応となっている。受診時にはバイタル表や、食事・水分の摂取量、また日常生活における本人の最近の様子等を記した『受診メモ』を家族からDr.へ渡してもらい、利用者の状態を伝えて適切な医療へつなげられるように努めている。	定期的に家族と共にかかりつけ医の受診をしている。受診メモの活用により、普段の健康状態が家族にも担当医にもわかり、受診後の薬の変更等、職員、家族共に情報の共有が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の服薬状況や受診結果、又、体調の変化については看護師である福祉部長に随時相談できる体制であり、助言や指示を頂いている。又、予防的な観点もふまえて適切な指導が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の状況や治療内容、入院後の経過や状態等、家族と医療機関で情報交換する様努めている。退院時には回復状況等連携を密にして、家族と本人が不安にならない様速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当グループホームの運営方針として常時医療が必要になった場合や、重度化・終末期の対応は出来ない事を契約時に伝え、納得して頂いている。又、早いうちからの施設申し込みをお願いし、折に触れ次の受入先を視野にいれておく必要性を伝えている。	入居前に重度化や終末期の対応はしていないことを説明をしている。重度化した場合、施設への申し込み等の支援を行っている。これまで併設の特別養護老人ホームへの入所や家族の近くにある施設への入所等があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルは職員全員に周知しており、職員間で急変時の対応等について折にふれて話し合いは行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼・夜間想定防災訓練を年に2回実施しており、地域の消防署の協力を頂き職員と利用者が参加している。又、消火器や避難経路の確保等設備点検も定期的に行われ、非常食用料の準備もある。	毎年、定期的に避難訓練を行っている。今年も消防署の協力を得て6月に開催しており、12月には夜間出火の想定で開催を予定している。昨年目標であった年に1回、ホーム単独による地域住民協力の訓練は民生委員等の予定が合わず実現できなかった。	地域を交えた訓練実現への取り組み姿勢は評価できる。今後は日程調整等、細かい部分を詰め、出来ることから少しずつ実現に向けた取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性や考え方、生活歴等を把握し、各々のその人らしさを受けとめることに努めている。排泄介助の際や入浴時には、本人のプライドに配慮し、プライバシーを守る基本的なケアを大切にしている。	各居室に鍵がついており、入居者は自由に鍵を掛ける事ができる。職員の半数が男性のため、入浴時等、羞恥心等に配慮している。居室にトイレがあり、バット類も他人の目に触れることなく置く事が出来、失敗しても他に気付かれることなく支援が出来る環境となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で利用者の心の動きに気を配り、本人の気持ちや意思を表現できるよう声かけしている。些細なことでも自己決定ができるような場面を多く作り、自立支援に向けたケアを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の中で基本的な流れはあるものの余暇時間等においては、本人のペースを大切に過ごせる様配慮している。レクリエーションの内容も利用者に確認し、参加についても本人の希望が優先される。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中での洋服は本人が選び身支度をしている。整容・整髪についても職員が見守り、声かけ、補佐をしながら身だしなみをされ、日常的に化粧や口紅をしている方もいる。行事や外出の際は皆様アクセサリーをされ華やかな気分で参加されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛りつけ・配膳・片づけまで利用者の力を借りて“食べる”だけでない関わりを大切にしている。おやつ作りも共に作業する事で達成感を味わって頂き、よきコミュニケーションの場ともなっている。“食べる事は生きる事”として活気ある日を提供すると共に利用者・職員で“食”を楽しんでいる。	併設の特別養護老人ホーム栄養管理士による栄養計算されたメニュー表を基にした食事にホーム独自に手を加え提供している。ご飯、味噌汁をよそる等、個々に出来ることをやって頂いている。季節の行事食等を企画し楽しんで頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量・水分量はデータ管理し、職員全員が情報を共有している。又、1人ひとりの嗜好を把握し食事と水分の確保に努めている。献立については併設の特養の管理栄養士が作成しており栄養バランスは確保できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行い、自室の洗面所又は共有の洗面所で利用者全員行っている。義歯の方は就寝前に洗浄剤を使用し清潔を保っている。又、日課としている合唱では、大きな声を出す事で唾液の分泌を促し誤嚥の予防にも役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日の生活リズムの中で定期的にトイレの声かけを行うと共に、一人ひとりのサインを職員が把握しさりげなく支援している。介助の際は利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で管理している。布パンツやリハビリパンツ、パット等個々の状態に合わせている。ほとんどの方が自立での排泄が可能であるが、お一人は声掛けして誘導支援をしての対応となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつに繊維質の多い食材や乳製品を採り入れており、水分摂取も進めている。又、健康体操や家事活動等身体を動かす機会を適度に設けて、自然排便が促される様工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声かけの際には対応時間内の希望時間を確認している。湯の温度は一人ひとりの好みに調節し、洗体時は出来る限り自分で洗う事が出来る様支援している。心身共にリフレッシュ出来る空間作りに努めている。	入浴は週2～3回、午前、午後共に本人の希望に沿った支援をしている。拒否をされるケースには時間をずらしたり、声掛け等の工夫をしている。時には菖蒲湯やゆず湯等で季節感を味わって楽しんで頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。夕食後は落ち着いて休める様な環境づくりに心がけ、利用者一人ひとりが安心して就寝できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の報告書を職員全員が目を通し、処方内容を理解するようにしている。薬の変更時には、特に状態の変化に注意し、様子を家族や主治医に伝えている。服薬時には複数職員で確認し合い、誤薬の予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事については一人ひとりの得意分野や積極性を活かしながら参加促し、メリハリのある活動的な日を送れる様支援している。又、その方にあわせた日課や役割で達成感を味わって頂き、共に喜び感謝する姿勢を大切にしている。行事や誕生会では皆でケーキを手作りし、作る過程から出来上がった満足感を共有し楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物については地域の店を利用する事で外出の機会に繋げている。週に1回来る移動バン屋さんや近隣のスーパー・和菓子屋さんに出掛ける事でお店の方と交流が生まれ、気分転換が図れる様支援している。近隣の公園には季節に応じた花や木が咲き、散歩やドライブで楽しんで頂いている。又、家族来苑時には外出・外食に協力頂き、利用者が希望される墓参り等も実現できている。	買い物は地域の商店に出掛け、店の人との交流の機会を得て頂いている。近隣の公園には四季の花が咲き、散歩の楽しみとなっている。家族の協力により外食する等、外出の機会も増えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば施設内の自動販売機で職員が同行し、利用者が自由に飲み物を購入している。又、一緒に買い物に出掛けた時は、お預かりしている小口現金から希望の品物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に公衆電話がありいつでも付き添い電話ができるよう支援している。利用者宛にかかってきた電話についてもスムーズに会話ができる様に対応している。手紙についても希望があればいつでも対応出来、家族との関係や外部との交流を大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に四季折々の草花を飾ったり、季節の行事に合わせた飾り物を用いている。共有部分の椅子やソファには利用者が手作りしたカバーをかけ、馴染みのものに囲まれ居心地のよい空間作りに努めている。	ホーム内は明るく食堂から中庭が見え、訪問時には蜜柑の木が食卓の話題となっていた。手編みの品やパッチワーク等が飾ってあり、テーブルには季節の花を飾っており、落ち着いた雰囲気である。食堂は入居者に合った大小のテーブルを配置する等の配慮を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームや廊下、玄関先などに椅子やソファ等を設置し、入居者が思い思いに過ごせる居場所を作っている。それぞれの場所でゆっくり1人で過ごす事もあり、又、気のあう利用者同士や職員も交えた交流の場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人持ちの家具等を、家族と相談しながら搬入してもらい、居心地の良い居室づくりを支援している。本人の思い出の品や家族の写真を置いて、その人らしい居室空間や雰囲気作りを大切に、落ち着いて過ごせるように工夫している。	居室共通のベッドやたんすの他、使い慣れたものを自由に持ち込んで頂いている。仏壇や思い出の写真等、その人らしく落ち着いて過ごしていただくよう、部屋づくりの支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にトイレと洗面台が設置されており、排泄や整容等自分でできる環境になっている。その中で利用者の目線に合わせ利用者の声に耳を傾け、可能な限り自立した生活を継続できるよう配慮している。共有部分と居室内の“動線”については常に職員間で話し合い、安全な環境作りを目指している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向け取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災訓練については消防署の協力を得て年に2回併設の特別養護老人ホームと連携して行われているが、今後は地域住民の協力を得て、グループホーム独自の防災対策が求められる。	苑全体の防災訓練に地域住民の参加協力を得る。防災対策には地域住民の連携・協力が必要である事を理解して頂き、グループホーム独自の防災対策・訓練を計画する。	運営推進会議の機会を利用し、防災訓練の重要性や目的を説明し、民生委員やボランティアの方々の参加協力を得る。 地域の方々が参加しやすい日程を確認し、防災訓練を計画していく。	9ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。